

優秀賞

住宅の部

建築主：A氏  
設計：株式会社和田吉貴建築事務所  
施工：株式会社ひらい  
所在地：袖ヶ浦市

～紡ぎ伝えるものとして～

Yn/h



南東外観

本作は、28代続く家系の系譜と地元の風土を、自らの手で編み直した極めて純度の高い建築実践である。

施主は長年、海外勤務を含む広範な官舎暮らしを経験してきたが、最終的に「終の棲家として穏やかに暮らす」場として選んだのは、先祖が守り継いできた杉の山であった。本作の最大の特徴は、構造材はもとより、外壁や内装に至るまで、ほぼすべての木材を自前の山から調達している点にある。自ら山に入り、木を選び、建築へと昇華させるプロセスは、単なる地産地消を超え、家系が土地に刻んできた時間の継承そのものである。

空間構成においては、トップライトから光が降り注ぐ土間が中心的な役割を担っている。この土間は、農作業の延長として活用できる実用的な屋内空間でありながら、各世帯の生活スタイルの独立性を尊重しつつ、緩やかな一体感を生み出す装置として機能している。母親と過ごす二世帯住宅としての距離感を、この中間領域が見事に解決していると言える。

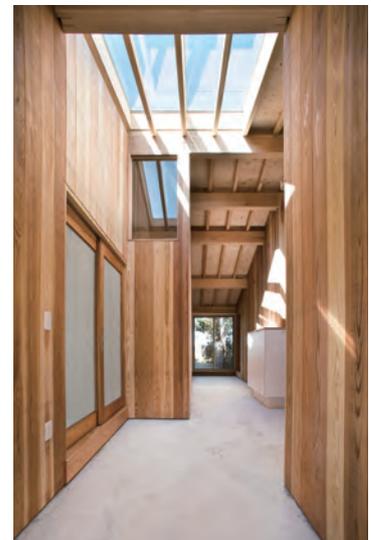
また、意匠的な配慮も地域への眼差しに満ちている。夜間、北側に設けられたハイサイドライトから漏れる光は、まるで行灯のように周囲を照らし、地域社会に対してほのかな温もりを感じさせている。

自らのルーツである「杉」という資源を核に、現代の暮らしと伝統的な農の営みを融合させたこの住まいは、ストック活用の時代において、個人がなし得る最も贅沢で誠実な建築のあり方を提示している。

(久富 清敏)



北面外観



エントランスホール

(撮影全て：株式会社エフジー武蔵)